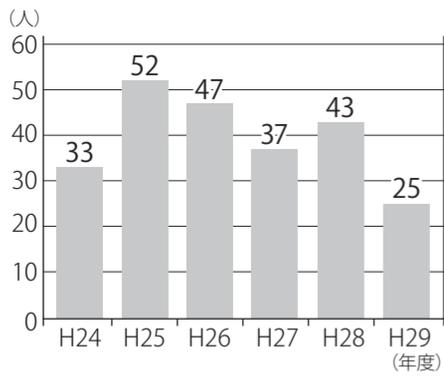


帯広市の自殺者数



近年、帯広市の自殺者数は減少傾向にあります(図)。しかし、20歳未満の若者の自殺者数は変わっておらず、平成24年度から平成29年度までの6年間で、9人が自殺に追い込まれています。

自殺は、自分だけではどうする

毎年、自殺に追いつかれてくる若者がいる

日々の生活の中には、進路や受験の悩み、職場の人間関係など、たくさんさんの悩みやストレスが存在します。

悩みを抱えた時に、「こんな話をして面倒くさいと思われたら嫌だな」「どこに相談していいのかわからない」と考え、一人で悩んだり、誰にも話すことができずに苦しい思いをしている人がいます。

「SOS出し方教室」は

若者が、さまざまなストレスや、一人で解決することが困難なことに直面した時に、自ら考え、解決に向け行動する力を向上させるため、市では皆さんが集う場に職員が出向き、不安や悩みへの対処方

「SOS出し方教室」の実施例 (50分の場合)

◆導入(10分)

SOSの出し方教室とは何か、ストレスの原因について学びます。



◆ワーク①(15分)

自分がつらくなったとき、どんな反応をするのか振り返りながら考え、グループで話し合います。



◆ワーク②(25分)

事例をもとにロールプレイングを行いながら、実際の場面での話し掛け方や聴き方、その時の気持ちを学びます。

SOSを出そう

SOSの出し方教室

市では、若者が一人で悩まず、自ら考え行動し活躍していくために必要な、SOSの出し方を伝える教室を行っています。

問い合わせ 健康推進課(東8南13、保健福祉センター内、☎25・9721)

帯広市 生きるを支える

検索

法などを学ぶ「SOSの出し方教室」を実施しています。

現在、全国では「命は大切」と伝えるだけでなく、生きていく上で必要になる実践的な能力を身に付ける教育が進められています。

市では、他の地域に先行して教室を実施し、若者の生きることへの支援に取り組んでいます。

見守る大人も理解が必要

SOSの出し方教室は、若者だけに限定したものではありません。若者からの「困った」「助けて」「相談したい」という思いを受け止める大人たちも対象としています。

どんなに小さな声でも、声にならないような思いであっても、周りの大人が気付くことができるよう、一緒に学んでみませんか。

まずは問い合わせください

学校や企業などの団体のほか、少人数のグループでも実施できます。対象者の年齢や人数、実施場所などに合わせて内容を考えさせていただきます。職員の派遣費用は掛かりませんが、まずは健康推進課に問い合わせください。

市長コラム

夢かなうまち おびひろ

“開拓” 姉妹都市40周年の節目に

帯広市長 米沢 則寿



皆さんは、桜餅を包む「葉っぱ」を食べる派でしょうか、食べない派でしょうか。開拓姉妹都市の松崎町は、桜葉の生産量日本一を誇っています。多くの人が桜葉でイメージするのは桜餅だと思いますが、そばやパンなどさまざまな食品に使用され、海外にも輸出されているそうです。

過日、松崎町の長嶋町長が来られた時、勉三が開拓の祖として帯広で慕われていることに、ずいぶん驚いておられました。地元では、依田家は豪農として有名ですが、三男坊が北海道に渡ったことは、あまり知られていないそうです。町長の話を伺いながら、私たちにとって勉三とはどういう存在なのか、改めて考えさせられました。

明治初期、資金と小作人を集め、鉄道も道路もない未開の十勝野を開墾し、畑作、酪農、バターや澱粉の製造販売など、次々と新しい事業に挑んだ勉三。その多くが結果として失敗したにもかかわらず、最後までこの地にとどまったのはなぜなのでしょう。

彼は、人が気付いていないものに目を向け、それまでにない価値を創り出すことに夢中になれる生粋の起業家だったのだと思います。事業自体は成功しなかったかもしれませんが、先が見えない「こと」や「もの」に果敢にチャレンジする情熱や姿勢、最後まで諦めない意地を、私たちは精神的な財産として、受け継いでいるのではないのでしょうか。

松崎町とは、昭和53年に姉妹都市を締結し、子ども親善訪問団の相互派遣などの交流が続けています。今年、40周年を迎え、9月6日からは、私も市民の皆さんと松崎町を訪問し、伝統文化や開拓の歴史に触れる記念行事に参加する予定です。

伊豆松崎町で生まれた依田勉三が、明治16年、晩成社を率いて十勝・帯広に開拓の鉄を入れたことは、帯広では誰もが知るところですが、ふるさとでの知名度はかなり異なるようです。

勉三は、亡くなる前に、病床で「晩成社には何も残らぬ。しかし、十勝野には…」と言葉を切らしたといわれています。遠く離れた松崎町で生まれた男が、広大な十勝平野の開拓に挑戦し、苦難の道のりを歩み続けた末に、どのような想いを抱いて最期を迎えたのか、言葉にならなかった部分を想像してみたいと思います。

勉三が、伝えたかったものは何なのか、節目の年に、「十勝野には…」に続く言葉を、皆さんがつくり、完成させてみませんか。